社　会　科　学習指導案

日　時　平成１６年１０月６日(水)　５校時
学　級　３年Ａ組(男 18 名 女 16 名 計 34 名)
指導者　藤　原　洋　樹

１ 単元(題材)名

第４章 わたしたちの暮らしと経済　(3)国民生活と福祉 ～公害の防止と環境保全

２　単元について

（１）教材観

この「わたしたちの暮らしと経済」という大項目は、主として個人、企業及び国や地方公共団体の経済活動を扱う。学習指導要領では、①消費生活を中心に経済活動の意義を理解させること、②市場経済の基本的な考え方について理解させること、③現代の生産の仕組みのあらましについて理解させること、④市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対して国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせることなどを主なねらいとしている。

①のねらいは中項目「私たちの生活と経済」に対応し、②③は中項目「市場経済と金融」に、④は「国民生活と福祉」に対応している。

経済の概念として「効率(市場経済にゆだねていく部分)」と「公正(ゆだねられない部分)」という考え方がある。指導に当たっては、この経済の二面性に留意して、経済活動が我々の社会生活にあらゆる面で密接な関わりを持っていることをふまえながら、今日の経済活動に関する諸課題に着目させ､自ら考えようとする態度を育てることが大切である。

本時の授業が含まれる中項目「国民生活と福祉」における基礎基本は、学習指導要領に記載されているとおり「国や地方公共団体が果たしている経済的な役割」「租税の意義と役割」「社会保障制度の基本的な内容」「少子高齢社会の実態と今後の社会の目指すべき方向」「公害など環境汚染や自然破壊の問題とそれを解決していく方策」について関心を持ち、様々な資料を活用しながら、考え、理解していくこととととらえている。

（２）生徒観

本時の授業を行う３年 A 組は、昨年１２月に実施した CRT テストの結果、社会的事象への関心・意欲・態度が、全国平均６６.２％に対して、男子７８％・女子７７.３％という高い数値が出た。このテストを実施した時期は、近現代史の戦争のところを授業で扱っていて、生徒の学習意欲がとても高かった。授業の中で、ビデオを見せたり、考えさせたり、感想を述べさせたりする場面をできるだけ多く設け、ふりかえりカードを授業の中心に据える形態をとり続けていたためではないかと感じている。

その後公民に入った当初は、ふりかえりカードに「楽しかった」「わかりやすかった」と答える生徒が多く、順調な滑り出しができたのだが、政治の学習にはいると、生徒たちの興味関心が昨年より後退してしまったように感じている。私の耳に「公民は難しいし、つまらない」という声も入ってくるようになった。

本時の授業で行う討論の授業については、３年生になってから、３回ほど行ったが、熱心に意見を交わしあう授業ができた。どんどん挙手をする生徒や、挙手はできない(もし

くは意見は持てていない)が、仲間の意見に真摯に耳を傾けている生徒も多くいた。反面、興味を示さず、考えようともしないでいる生徒も女子を中心に数名存在した。

全体的に、一問一答式の安易な問題は、積極的に発言を行える学級である。しかし、社会的な思考を問う発問にはなかなか手は上がらず、決まった生徒になってしまう。

ＣＲＴテストの結果を見ると、先述した関心意欲態度とともに、技能表現と知識理解もわずかながら全国得点率を上回っているのに対して、思考判断の観点では、49.2%(全国53.3%)と振るわない。

本単元の目標と密接な関連を持つ既習事項としては、憲法(人権)の学習において扱った「環境権」、地方自治の学習において扱った「地方財政の課題」「魅力あるまちづくり」、経済の学習で前時までに扱った「社会資本の整備・公共投資」「限りある財源の望ましい配分」ととらえている。当該単元の直前に扱ったものは頭に残っているだろうが、地方自治や環境権のあたりの学習事項は忘れてしまっていると考えられる。

（３）指導観

この中単元では、国家財政・租税・社会保障・環境保全など漠然とした大きな問題を扱うため、自分とは遠い世界のもののように感じ取られてしまいかねない。「難しいしつまらない」という思いが大きくなりそうなテーマであるため、自分の問題として積極的に取り組ませていくために、随所で身近な事例を取り上げていきたい。

さらに、仲間と知恵を出し合い、協力して学習させるための小グループの活用や討論場面の設置などを考えていきたい。こうすることで、「自ら学び、自ら考える力をはぐくむ指導」に迫ることができると考える。

また、教材研究を丁寧に行い、学習意欲を刺激するような「学びの必然性」を授業の中にうまく位置づけていきたい。

討論では、意見の出し方・話の聞き方などを再確認する手立てを組み、出された一つ一つの意見を大事にするためにも、板書の工夫やふりかえりカードの有効活用を
図っていきたい。

（４）教科における最終的な願い(生き方)に対する指導観

○　日本・岩手県・松尾村に住む、社会・地域の一構成員として、よりよい郷土を構築していこうとする態度を身につけさせたい。

○　豊かな生活とはどのようなものであるかを考えさせたい。

○　様々な問題についてどのように解決していけばよいか、自分なりの意見をまとめ、仲間と意見を交わすことによって、コモンセンスを導き出す態度を身につけさせたい。

３　単元(題材)の目標

【関心・意欲・態度】

国や地方公共団体の経済活動に対する関心を高め、意欲的に追究し考えることができる。

【思考・判断】

国や地方公共団体が果たしている経済的な役割や財政について多面的・多角的に考察し、国や地方公共団体の経済活動のあり方について様々な観点や立場から公正に判断することができる。

【技能・表現】
国や地方公共団体の経済活動に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる。
【知識・理解】
社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解することができる。

4　単元(題材)の指導計画と評価規準

時	指導目標	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	○政府が果たしている経済的な役割を考え、租税の意義・役割・しくみについて理解する。	わたしたち自身も納税者であるという意識のもとに，税金に対して関心をもつことができる。		税金のしくみや特徴などについてグラフや図をもとに調べ，説明することができる。	租税の種類と納税の方法を理解し、国民生活向上のために税金が必要なことを理解できる。
2	○限られた財源の望ましい配分について考えるとともに、景気対策について理解し、財政の課題について考える。		限られた財源の望ましい配分について考え、景気対策や公債発行の課題について、事例を通して考察できる。		景気を調整するために様々な手だてが講じられていることを理解することができる。
3	○日本の社会保障制度の概略と少子高齢社会の特色を理解し、その改善策について考える。		高齢化の進展がもたらす課題をとらえ、その改善策について様々な立場から考察することができる。	少子高齢社会に関する様々な資料を的確に読み取り、説明することができる。	社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度の概略を理解できる。
4	○公害など自然破壊の問題について理解し、問題を解決するために、行政が対策をとり、企業、個人が 責任ある行動をとる必要があることに気づく。	地球環境の問題も身近な問題に直結することとして関心をもち，地域にそして地球に生きる存在としての自分を意識して学習に取り組もうとする。	「環境破壊」の原因とその影響について考えるとともに，現在のそして将来の自分にできることは何かを考察し，実際の生活で実行しようとする。		四大公害裁判の概要、国や地方公共団体の自然保護対策・公害対策について理解できる。
5 本時	○地域の事例をもとに「環境保全と開発」という問題について話し合いを行い、経済活動の意義をふまえ、自然との調和をいかに図っていくか考える。	仲間の意見に耳を傾け、積極的に自分の意見を発表し、話し合いに意欲的に参加することができる。	地域の事例をもとに「環境保全と開発」という問題について、多面的・多角的に考察し、自分なりの意見を作り上げ、公正に判断できる。		

５　本時の指導

（１）目標

地域の事例をもとに「環境保全と開発」という問題について話し合いを行い、経済活動の意義をふまえ、自然との調和をいかに図っていくか考える。

（２）本時の評価の観点と具体の評価規準

観点	評価規準	具体の評価規準		
		A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	Cと判断される生徒への支援
意欲・態度	仲間の意見に耳を傾け、積極的に自分の意見を発表し、話し合いに意欲的に参加することができる。	小グループ内で、もしくは全体の場で、仲間の意見に対して相づちや質問を入れながら意欲的に耳を傾け、自らも積極的に発言できる。	小グループ内で、もしくは全体の場で仲間の意見に意欲的に耳を傾け、自らの意見をまとめることができる。	・資料がうまく読み取れないと話し合いに加われないので、小グループでの練りあいの場面で、お互いに教えあったり、教師がグループ間を回っていく中で助言したりしていきたい。
思考・判断	地域の事例をもとに「環境保全と開発」という問題について、多面的・多角的に考察し、自分なりの意見を作り上げ、公正に判断できる。	資料を的確に比較検討し、既習事項や学習体験、生活体験、話し合いの中で出た賛否両者の意見などを総合的に活用・引用しながら、論点に沿って適切な判断に基づいた自分の意見を作り上げることができる。	資料の中の意見や、基礎的な生活体験を引用しながら、自分なりの考えをまとめることができる。	・難解な語句などは、言い直したり、わかりやすく説明したりして、資料や意見が理解されやすいように工夫する。 ・自分の意見を持つためにはまず、人の意見をよく聴くことから始めさせたい。

（３）指導の構想

本時では、討論を通して、持続可能な開発を推進することの重要性について理解させながら、自然環境の保全と利用を進めていくことについて考えさせていきたい。

この「開発と環境保全の調和」の問題を解決していくためには、国や地方公共団体の取り組みが大切であることを理解させ、さらに、自らの生活を見直すと共に、現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていこうとする態度を育てることが必要である。

本時の指導を行う上で、以下の３点を特に考えていきたい。

ア．　学びの必然性を示す導入と資料提示

まず、討論が成り立つためには、「自分の意見を持ちたい！」「自分の意見を発表したい！」という思いを生徒たちに持たせることが不可欠である。

扱うテーマが「環境保全と開発の調和」という漠然としたものであり、自分の生活からかけ離れたことと受け止められると、学びの必然性が損なわれてしまう。

また、意見を持つにしても、大所に構えた理想論の応酬となることも予想される。

環境保全という問題は、きれい事だけで解決するものではなく、快適な生活・豊かな生活を求めようとする自分自身も含めた人間誰もが持っている欲望とのせめぎ合いの中で考

えていかなければならないものであり、自然と人間生活との調和のラインをどのように線引きしていくことが、望ましいのかという視点を持つことが大切である。

そのため今回は、地元の松尾村における「奥産道」の開発計画と建設中止の事例を題材として取り上げていきたい。

これにより、この問題を自分たちの生活に直結する身近なものとしてとらえることが出来、さらに環境保全を無批判に、理想論だけで語るのではなく、そこに住む人々(松尾村民)の生活に思いを馳せ、一筋縄ではいかない問題であることを悟り、開発派と保全派との両者の狭間で葛藤しながら深まった意見が交わされることを期待している。

イ．意見を作るプロセス（仲間とのかかわりあい）

開発派と保全派両者の立場から多面的多角的に考察し、自分なりの意見をまとめさせていきたいと考えている。

そのためにも、生徒同士の“かかわりあい”の場面を積極的に設けていきたい。

しかし、なかなか討論に入り込めない生徒や、自分の意見すら持てない生徒がいるのが事実である。そこで、①自分の意見を持つためにはまず、人の意見をよく聴くことを伝える。②難解な語句は、わかりやすく説明し、資料や意見が理解しやすいように工夫する。③話し合いに自分なりに参加しているという実感を持たせるために、全体の場で賛否の意思表示を挙手で行って、みんなが意見を持っていること、持とうとしていることを示し、互いの意欲を刺激する。以上の３点に配慮していきたい。

ウ．基礎基本定着の手立て

意見の作り方・話し方・聞き方・話し合い方については、教室掲示にて示しているので、不安な生徒はそれを意識しながら発表させていきたい。

また、授業後のふりかえりカードの記入を通して、生徒自身の学習のふりかえりをさせ、教師側も本時のふりかえりを行い、次時につなげていきたいし、仲間の意見をたたえているようなふりかえりも次時の授業の冒頭で紹介して、次への意識付けを図っていきたい。

(4)展開

過程	学習の流れと主要発問	生徒の学習活動	教師の支援(○)評価(□)留意点(・)
想起 把握 6分	1．前時の復習 「奥産道ってなあに？」 2．内容課題の設定	奥産道のあらましについてのプレゼンを見て前時を想起する。 奥産道の建設中止について考えよう 私たちの郷土(岩手・松尾)がどうあるべきか、みんなで意見を交わしあい、自分の考えを作り上げよう	○プレゼンを操作し、奥産道の建設中止問題の概要をわかりやすく生徒に提示する。 ・「“環境保全と開発”という問題において、これからの岩手県・松尾村はどうあればよいか」という本時の課題をつかませる。
課題追究 40分	3．小グループでの意見交流	グループ意見交流のめあてを確認する。 グループ内で、互いの意見を交流しながら、自分の意見を固めていく。	・現時点での自分の思いを表すのであって、授業を進めていく上で考えが変化しても構わないことを伝える。 ・小グループ活動は、意見交流だけではなく、資料解釈で不明な点の学びあい場としても捉えさせたい。 ○資料解釈で不明な部分については教師も積極的に期間指導する。 □(関)仲間の意見に耳を傾け、積極的に自分の意見を発表し、話し合いに意欲的に参加しているか。〔観察・発言〕
	【A】 仲間と頭をあわせて話し合い、仲間の意見に対してうなづいたり、首を振ったり反応しながら、「なるほど！」「そうかな？」とつぶやいたり、「どうして？」と質問を入れながら意欲的に耳を傾け、自らも積極的に発言できる。	【B】 仲間の意見をそっぽを向かずに背もたれに重心を預けずに、黙って耳を傾け、シートに記入した自らの意見を声に出して読み上げることができる。	【C】 ・資料がうまく読み取れないと話し合いに加われないので、小グループでの練りあいの場面で、お互いに教えあったり、教師がグループ間を回っていく中で助言したりしていきたい。
	4．全体討論	小グループを解体して、全体討論に入る。 ・賛成か反対か、全員挙手 ・全体討論のめあてを確認 ・自分の意見を発表	□(思)自己の既存の知識や体験をもとに意見を作ることができているか〔発言〕
	【A】 資料を的確に比較検討し、既習事項や学習体験、生活体験、話し合いの中で出た賛否両者の意見などを総合的に活用・引用しながら、論点に沿って適切な判断に基づいた自分の意見を作り上げることができる。 《推進》 「開通すれば村の観光収益が上がる。地方税の収入も増える。財政の苦しい松尾村の発展のためにもとても大事。」「駒ヶ岳のようにバスだけの通行にすることで環境への負荷を押さえればいい」「維持費は有料道路にして補う」 《反対》 「観光客が山に入ること自体が悪影響。外来種が増えてしまう。」「建設費だけでなく、除雪費・補修費など維持費もかかる。松尾も岩手も財政に余裕はない。」「沖縄では、道路が動物の行き来を遮断し、絶滅の危機に陥っている」	【B】 資料の中の意見や、基礎的な生活体験を引用しながら、自分なりの考えをまとめることができる。 《推進》 「村民には、ホテル・ペンションなど観光業を営んでいる人も多い。豊かな生活を求めるのは当然のこと。イヌワシはいなくても困らない。」「あと 3km で完成なのに中止したら、今までの費用が無駄。ここだけの緑にこだわらなくてもいい」「観光客誘致だけでなく、松尾から雫石に抜ける近道。あれば便利。」 《反対》 「自然が豊かなのが岩手・松尾の魅力」「素晴らしい自然に囲まれた所に私たちは住んでいるということで、この自然はお金には換えられない財産である。」「建設することより開通した後の自然破壊(騒音・ポイ捨て・大気汚染)が重大」	【C】 ・難解な語句などは、言い直したり、わかりやすく説明したりして、資料や意見が理解されやすいように工夫する。 ・自分の意見を持つためにはまず、人の意見をよく聴くことから始めさせたい。
	6．討論のまとめ	学習シートに記入する 感想と最終意見を記入・発表する(聞く)。	□(思)内容課題を多面的・多角的に考察し、自分の意見をまとめることができているか〔学習シート〕
まとめ 4分	7．その後の奥産道 8．本時のまとめ	奥産道のその後を知る。 振り返りカードを記入する	□(関)授業へ意欲的に取り組めたか〔自己評価〕 □(思)新たな発見や疑問を見つけることができたか〔ふりかえりカード〕